

環境感染学会は新型コロナの医療機関 対応ガイド、第3版を公開

日本環境感染学会は8日、「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド（第3版）」を公開した。国内での感染者の診療体制に関する情報など、第2版の内容を更新した。自治体と医師会、地域医療機関との連携により、新たな取り組みが導入されていることを記載。患者が診療所などに相談しPCR検査が必要と判断されれば、「検査スポット」や「PCRセンター」など検体採取を集中的にできる場所で、検査を受けられるとした。

感染対策に関しては、無症状あるいは症状が軽微な職員から他の職員や患者への感染を防ぐため、全ての職員が院内では常時サージカルマスクを着用することを検討するよう求めた。同ウイルス感染者の咽頭には、症状出現の2日ほど前から症状出現直後にかけてウイルスの増殖がみられ、感染性を発揮する可能性が指摘されているとした。

新たに医療従事者の暴露後の対応に関する考え方も示した。医療従事者が同ウイルスに暴露したとしても、すぐにPCR検査の対象となるわけではないとした。暴露後早期であれば検出感度は低いことが予想されるため、まずは検査に依存せず感染対策上の観点から、就業制限などを含めた対応を優先的に実施する必要性を指摘した。